



ムーブメント教育を視点にした実践

生徒の障害名からどういった課題があるかを選別し、座位や立位でのバランス感覚を促す課題に取り組みました。MEPAを参考にしながらファシリテーションボールやトランポリンを使い、足底でバランスを取ることを繰り返し行いました。ファシリテーションボールから立ち上がりができたり、指先で踏ん張り重心移動ができたりと生徒の細かい動きに気付くことができました。

参考文献：ムーブメント教育・療法による発達支援ステップガイド



スイッチの適合性から移動型支援機器の実践

生徒の可動域に着目しながらOAKを使い、どのスイッチが使用しやすいか選別をしました。顔に随意性の可動域があることがわかり、頬で操作できるタッチスイッチを使用しました。iPad タッチャーを使ったタブレット型端末の操作では、繰り返し行くと特定のアプリに表情の変化が見られました。スイッチの操作性が出てきたので移動型支援機器の操作を取り入れました。繰り返し行くと、目を大きく開けながら周囲を探求する様子がありました。また、心拍も安定し初めて、教員が離れて体育大会に取り組むことができました。

参考文献：障がいのある子の力を生かすスイッチ製作とおもちゃの改造入門